



看護部通信



2018年8月

この度の西日本豪雨は、甚大な被害となりました。被災地の一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。テレビから目に飛び込む痛ましい映像は、7年前の東日本大震災を思い出させるものでした。地震大国日本ですが、豪雨・洪水・土砂崩れを伴う自然災害も頻繁に起きています。避難指示発令後も「大丈夫だろう」という根拠のない思いで自宅にとどまり、孤立する住民が続出したと聞きます。改めて、自然災害に対する心構えや情報・知識の備えが必要であることを学びました。(看護管理室)

カセットテープ屋さん

6病棟 N

先日、秋田市旭南の細い路地の先にひっそりと佇んでいるカフェに行ってきました。振り子時計の音が心地よく、畳にちゃぶ台と懐かしい昭和風の店内でした。ご主人が焙煎してくれるこだわりの珈琲を頂くことができるのですが、なんとここはカセットテープ屋さんでもあるのです。

カセットテープなんて・・・と思われるかもしれませんが、数年前からカセットテープブームがじわじわ来ており、あえてカセットテープでリリースするアーティストも増えてきています。とは言うものの、私もじっくり聞いてみるのは初めてでした。ご主人に好みの音楽を伝え、お薦めのテープを流してくれました。音に温かみがあり、ほっとした時間を過ごすことができました。

私は、ウォークマンと数本のテープをお持ち帰りし、毎日カセットテープライフを楽しんでいます。



カセットテープで音楽を楽しんだ世代からすると、若い世代がカセットテープを知っているだけで嬉しくなります。

注文を間違える料理店

6病棟 S

「注文を間違える料理店」が都内でオープンしました。ホールで働くスタッフは認知症で、時々注文を間違えたり、ミスしたりすることがあります。間違いがあっても受け入れよう。そして、楽しもう。そんな価値観を大切にしている料理店です。

私が認知症病棟へ異動になり、3か月が過ぎました。自分はどうか。看護する側としては、「事故を起こしてはならない」というプレッシャーがあり、管理的な態度で接していないだろうか、と考えてしまいます。そうせざるを得ない事情も少なくなく、一筋縄では解決できません。しかし、私たち一人ひとりが、少しくらい間違ってもいいという寛容さをほんのちょっとだけ持てたとしたら、一筋縄ではいかない状況を解決できるかもしれません。

私たち自身も、いつか支えられる側になります。少しでも自分自身が幸せな環境を得られるようにという意味でも、寛容さについて改めて考えてみなければならないと感じました。

他人に寛容になるだけでなく、自分の心に対しても寛容でありたいものです。

